

# スリランカの日系大・クマラー学長

## 大学間の国際交流推進へ

### 鈴鹿大訪問、学長らと懇談

【鈴鹿】スリランカのマッポン・ヒステック・イン  
ラガマ市にある南アジア スティテュート(LNBT  
の日系大学「ランカ・ニ」のアーナンダ・クマ  
ラー学長(右)が十日、鈴鹿  
市郡山町の鈴鹿大学を訪  
れ、川又俊則学長らと、今  
後の両大学の交流に向けて  
懇談した。

クマラー学長は鈴鹿大教  
授や副学長、東京工業大特  
任教授、名城大教授などを  
歴任。グローバル人材育成  
の就職を目指す。今年六月

### 日本語学習冊子、300冊寄贈



大学同士の交流について懇談するクマラー学  
長(右)と大学関係者ら。鈴鹿市郡山町の鈴  
鹿大学で。



目録を手にする吉崎事務局長(左)と冊子  
を手にするクマラー学長(中央)。鈴鹿市  
神戸一丁目の鈴鹿国際交流協会。

### 鈴鹿国際交流協、クマラー氏に

【鈴鹿】鈴鹿市の鈴鹿国  
際交流協会(伊藤輝義理事  
長)は十日、同市神戸一丁  
目の同協会で、スリランカ  
のマハラガマ市にある南ア  
シア初の日系大学「ランカ  
・ニ」のアーナンダ・ク  
マラー学長(右)に、日本  
語を学ぶための冊子「すず  
かのせい」約三百冊を寄  
贈した。

冊子はA4判、五十一  
ページ。日常生活で使用する言  
葉を学ぶ教材として、三月  
に七百部を作製。平成二十  
六年に地域の日本語ボラン  
ティアと作成し、ホームペ  
ージで内容を公開していた  
が、このほど趣旨に賛同し

に大学の認可を受け、現在  
約百人が学ぶ。  
川又学長は「今日を機会  
に交流の輪を広げたい」と  
あいさつし、クマラー学長  
の来校を歓迎。クマラー学  
長は鈴鹿大で約二十年教え  
た中の思い出を振り返り  
ながら「LNBTの学生  
は日本で働くことを目標と  
しており、何らかの形で連  
携できれば」と話した。  
鈴鹿大学短期大学の長  
澤貴学長は「まずはオンラ  
インを活用した学生同士の  
交流を図ることができれば  
ではないか」と、川又学長は  
「大学にはスリランカの留  
学生もいるので、互いに交  
流できれば」とそれぞれ話  
した。(蔵城洋子)

た市内企業の協力で、ごみ  
の出し方や鈴鹿の方言な  
ど、一部修正して冊子にま  
とめた。  
クマラー学長は、同市郡  
山町の鈴鹿大で約二十年に  
わたって教授や副学長を務  
めた。産学官連携でセイロ  
ンワリの栽培に取り組みな  
ど、行政や地域と積極的に  
関わってきたことなどが縁  
で、同協会とも親交が続  
く。  
クマラー氏の学長就任を  
受けて、「スリランカにい  
る時から、学生に鈴鹿に興  
味を持ってもらえれば」と  
同協会から寄贈を提案し  
た。  
寄贈を受けた冊子は日本  
語教育の一環として、学生  
たちが活用する。  
吉崎美穂事務局長から目  
録を受け取ったクマラー学  
長は「日本社会を理解する  
ための教材になる。今後も  
市と連携できれば」と話し